

現地簡易調査 報告書

プロジェクトの取り組みがどのような保育の変化をもたらしたかに関する 簡易調査

2021年9月20日

就学前教育・保育の質向上プロジェクト

神谷 哲郎

川村 幹

就学前教育・保育の質向上プロジェクトの取り組みによるターゲット保育園における
保育の変化について簡易調査を行った結果を以下のとおり報告する。

1. 目的

本調査の目的は以下の2点である。

- ① プロジェクトの取り組みによって、実施される保育がどのように変化したか、保育士の保育に対する考え方・意欲の変化、具体的な行動変容をもたらしたかを明らかにする。
- ② プロジェクトが推進した取り組み（砂場遊び、コーナー遊び、絵本の導入）を保育士たちはどのように捉えているかを明らかにする

なお、本調査は、プロジェクト PDM の Output1: The capacity of facilitators of nurseries to conduct the learning through playing is improved における保育士の能力強化に関わる部分についての調査である。

2. 方法

- 保育園関係者に質問紙を配布し、回答を依頼。可能な限り、園長にインタビューを行った。
- 質問紙は、保育園関係者、園長、保育士、ナニーに配布した（調査実施園および人数は表1参照）。
- 質問紙は、1.プロジェクトの取り組み全体について、2.砂場、3.コーナー遊び、4.絵本に関する内容で構成されている。なお質問紙は、エジプトアラビア語で作成された（参照：添付1）。

3. 調査日程と対象園¹

調査の日程と、調査を実施した保育園および質問紙の配布数は表 1 の通りである。2021 年 8 月 10 日から 8 月 24 日の期間で各県 4 園、合計 20 園を訪問した。

Date	Governorate	The name of nursery	聞き取り調査に回答した Director	質問紙配 布数
2021.Aug.10	Ismailia	Algold	Ms. Doaa Mohamed Ateiya	10
		Dar al shefa	Ms. Al-Shaimaa Mohamed	5
2021.Aug.11		Rowad Altanmeya	Ms. Hoda Abd Elraady Shahaat	6
Alnesaeya		(訪問時不在)	3	
2021.Aug.15	Portside	Om al Momenen	Ms. Manal Awad Mohamed	9
2021.Aug.16		Alsayeda Hafsa	Ms. Yasmin Mohamed	6
		Alnour w alamal	Ms. Doaa Ahmed Alhennawy	5
		El Hoda AL Nabawy	Ms. Azza Mahmoud Khaleel	5
2021.Aug.17	Quliyubia	Alnour Abu elgheet	Ms. Magda Abd el Latif Ahmed	8
2021.Aug.22		Panda Garden	Ms. Manal Mohamed Hassan	4
		Alnoor	Ms. Shaimaa Abd elaziz Metwally	8
		Gannat El Atfaal	Ms. Haidy Mohamed Ezzat	11
2021.Aug.18	Kafr el shaikh	Dar Om Almoeminiin Deqla	(訪問時不在)	5
2021.Aug.19		Magles Elmadina	Ms. Rabaab Samir Mohamed	6
		Almarwa Letanmeiyat Almogtamaa	Ms. Karima Hassan	8
		Alsafa	Ms. Ranya Galal Abdelaziz	4
2021.Aug.23	Suez	Alghad Algadid	Ms. Menna Hassan Murad	5
2021.Aug.24		Gannat ElAtfaal	Ms. Ahlaam Harby Sayed	3
		Attefl Al Muslem	(訪問時不在)	3
		Ibrahim Al Khalil	Ms. Asmaa Said Mahmoud	10
合計	5 県	20 園	17 名	124 名

表 1 調査を実施した保育園および質問紙の配布数

¹ 新型コロナウイルスの影響で変化した子どもの数や、保育士の数、開園の有無、考慮し、調査に協力できる保育園を各県モデレーヤスタッフが選定した。

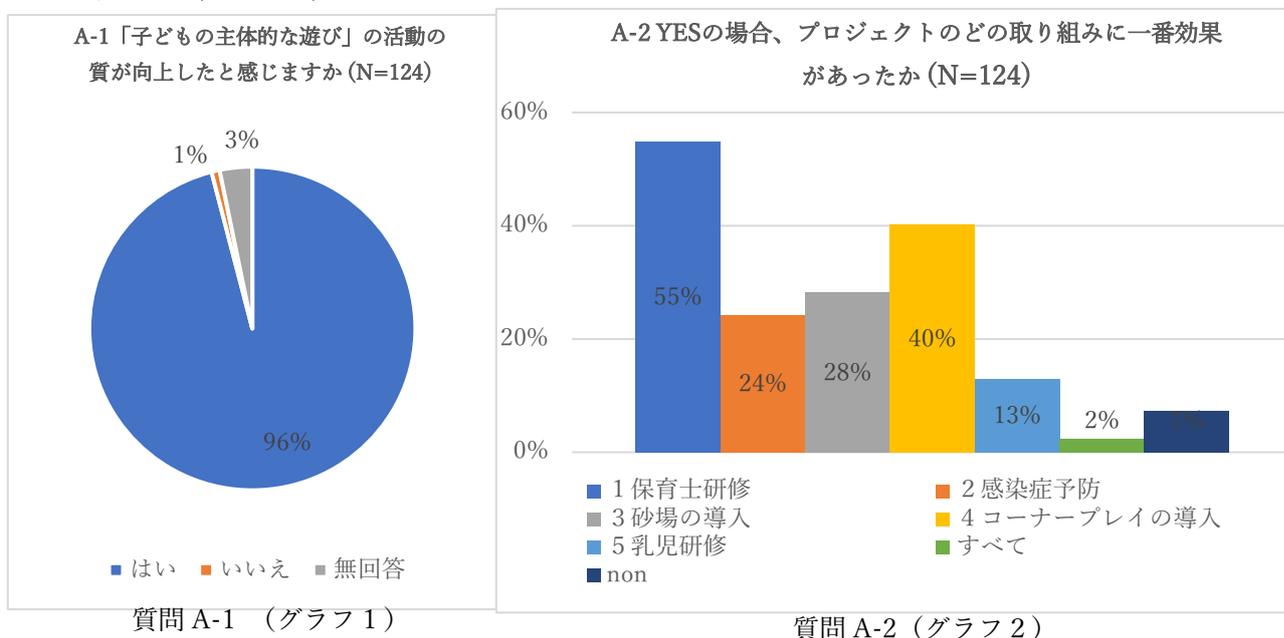
4. 結果

質問紙の質問項目と関連の深い聞き取り結果を提示していく。なお質問の英字と番号は配布された質問紙の番号をそのまま引用している。

4-1. プロジェクト全般について

質問 A-1「プロジェクトの支援によって、保育園における『子どもの主体的な遊び』の活動の質が向上したと感じますか」という質問に対しては、96%の保育士が「はい」と回答した（グラフ 1）。

質問 A-2「YES の場合、プロジェクトのどの取り組みに一番効果があったか」に対しては、55%が「保育士研修」と回答し、40%が「コーナープレイの導入」、28%が「砂場の導入」と回答した（グラフ 2）。



この二つの結果から、プロジェクトでの取り組みは保育士にとって、保育の質を向上するために効果があったと認識されていることがわかる。また、保育士研修は多くの保育士にとって、「主体的な遊び」を実施するための参考になっている。プロジェクトで特に力を入れて導入を図った、コーナープレイや砂場遊びの導入は、保育士たちが「子どもの主体的な遊び」を向上させるための実践や学びを得るための機会になっていた。

質問 A-9 「プロジェクトの取り組みで保育にどのような変化があったか」という質問には、記述式で回答してもらった。得た回答は「子どもの変化」「保育士の変化」「保育の活動の変化」と3つのカテゴリに分けることができた（表2）。

保育士たちは遊びを導入することによる「子どもの変化」について、子どもたちが遊びを通して「スキル（片付け・スコップ、バケツ、ハサミなどの道具の使い方など）を身に付けている」こと、遊びを楽しむことで子どもたちの「登園意欲が向上した」と回答している。

保育士の変化としては、「子どもの心理を理解できるようになった」「子どもとの関り方を知る」ことができた、「（子どもたちは）遊びを通して学んでいることを理解した」など、子どもをとらえる視点に変化があった。聞き取りにおいても、「子どもとの関りが楽になった」、「泣いている子どもへの対処法がわかるようになった」、「楽しいと思える活動を中心に取り入れるようになった」などということが語られた。（回答者 Ms. Rabaab Samir Mohamed、Ms. Ranya Galal Abdelaziz、Ms. Shaimaa Abd elaziz Metwally、Ms. Asmaa Said Mahmoud）これらのことから、乳幼児期の子どもについての理解が深まったことと、子どもとの関りに変化があったことが伺える。

保育活動の変化では、「コーナー遊びの実践」「砂遊びの実践」とプロジェクトで導入した活動について多く触れられていた。「保育の方法が変わった」に関して、聞き取りで詳しく問うと、以前は、子どもたちは椅子に座って鉛筆とノートを使って暗記をする、授業で学ぶなどといった、受け身的な活動が多かったが、プロジェクトの支援によって、保育園の一日の中で、子ども達が主体的に動く時間が増えたと語った。

質問 A-10 「このような変化の要因はなにか」という質問に対しては、以下の回答があった（表3）。変化の要因として、一番多かったのは「研修とワークショップに参加したから」であった。トレーニングでは、子どもとの関り方、個人差を考慮した対応や、遊びや環境の準備について学んだと書かれていた。またそういった研修の内容を保育園で実践することで理解が深まることもあるようで、「遊びを通した学びを取り入れたから」「遊びのレパートリーが増えたから」なども記述されていた。研修での学びが直接保育に生かされていることが伺えた。一方、聞き取りでは、この保育の変化に対して、保護者の理解を得る必要があったことが語られていた。プロジェクトの介入で保育の活動が体系的に変化したことに対して、子どもの学習について心配する保護者が多かったとのことであった。保護者会などで、活動と子どもの学習の関連について説明をするなど、保育士から説明することが必要であるという意見があり、保護者・コミュニティに対しての啓発活動の重要性が明らかになった。

変化の要因として次に多かったのは、「コーナー遊びの部屋があるから」「砂場があるから」「玩具があるから」など、環境が整っていることによって保育の活動が変化したことがわかる。保育の実践そのものに変化をもたらすために、環境を整えたり、物資を提供したりすることは有効的であることがわかった。

子どもの変化	遊びでスキルを発達・習得・開発	15
	遊びは子ども同士の交流・社会性を身に付ける	5
	泰國意欲が向上した	12
	遊びでエネルギーを発散する	4
	色や形、名前を学ぶ	3
	色塗り・お絵描きをする	2
	マナーの学習	2
	問題解決をする	2
	集中力を高める	1
	協力的になった	3
	身辺自立（片付け・清潔）	1
保育士の変化	子どもの行動を改善する	2
	子どもとの関わり方を知る	5
	保育士のパフォーマンスが向上した	2
	研修参加した	1
	遊びを通して学ぶことを理解した	5
	環境の準備方法を知った	3
	子どもの心理を理解できるようになった	6
	食育への関心が高まった	2
	保育へのモチベーションが向上した	1
	学習の質が向上した	4
	保護者意見とのバランスをとる必要性が出てきた（学習と遊び）	1
	変化なし	1
保育活動の変化	乳児保育の向上（食事とセルフケア・遊び）	5
	保育方法が変わった	17
	遊びを通して学びの実践	4
	コーナー遊びの実践	15
	絵本遊びの実践	9
	砂盤遊びの実践	19
	Create your joyの導入	4
	体を動かす活動の増加	1
	指先を使う活動	2

コーナー遊びがあるから	11
砂遊びがあるから	7
絵本があるから	3
子どもと一緒に遊ぶことを学んだから	3
発展していることが好き	1
負のエネルギーの流出	3
遊びを通した学びを取り入れたこと	5
子どもが好きな動きのある学習を取り入れたから	1
子ども同士で交流をする	2
遊びを通した学びを理解したから	3
玩具があるから	6
保育士と一緒に遊ぶから	2
遊びのレパートリーが増えたから	3
トレーニングとワークショップ	28
遊び方と活動内容について	2
研修や玩具などの物資の提供	3
自立と読書（自己研鑽）	1
独自ツールを作る	1
モチベーションがあるから	1
責任感があるから	1
コロナでプロジェクトの研修が中断された	1
研修で学んだことの実践をしたから	2
親とのコミュニケーション	3
子どもの扱い・個人差を考慮に入れた対応	6
環境の準備を学んだから	1
対話の重要性を知ったから	1

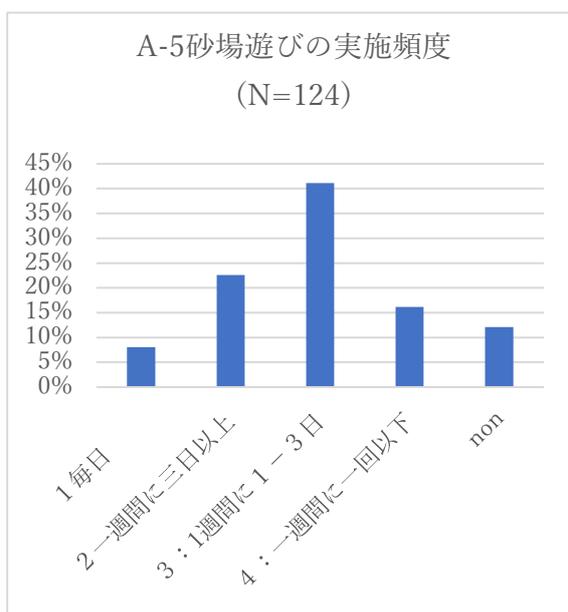
質問 A-10 （表 3）

質問 A-9 （表 2）

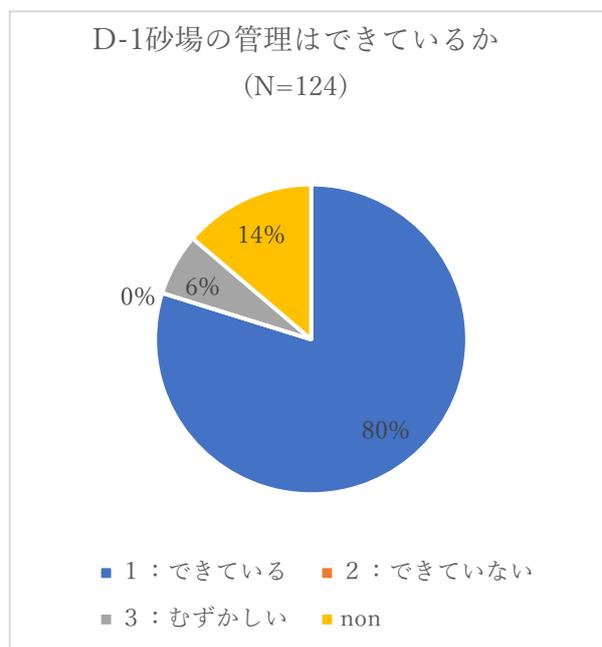
以下、砂場遊び、コーナー遊び、絵本について、取り組みごとで質問に対する保育士の回答を示す。

4-2.砂場遊び

質問 A-5 「砂場遊びはどれくらいの頻度で実施してるか」について、グラフ 3 の通り、実施頻度は、40%が「一週間に1-3日」の使用頻度で毎日の遊びに取り入れられているということではなかった。これは、天候や、子どもの人数、保育士の配置、遊ぶ時間に左右されるようであった。クラスごとで曜日を決めて順番に使用しているという園もあった。



質問 A-5 (グラフ 3)

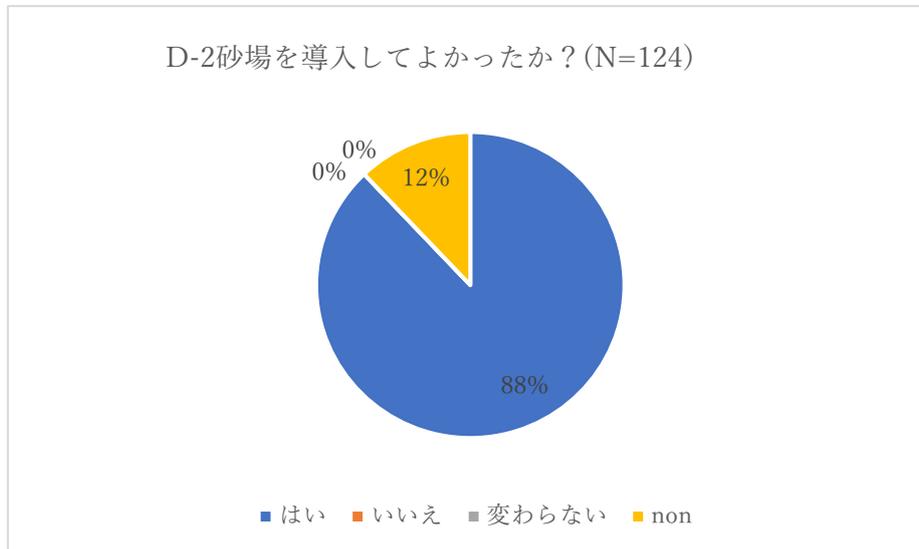


質問 D-1 (グラフ 4)

砂場遊びはこれまでのエジプトの保育園では実践されてこなかった、新しい活動である。そのため、導入にあたり、まず砂場の設備を整える必要があった。これは、各園の管轄の NGO、またはモデレーヤ、JICA の金銭的援助のもと設置されている。

質問 D-1 「砂場の管理はできているか」について、砂場の管理には、メンテナンスが必要となるが、80%の保育士が砂場の管理ができていると回答した (グラフ 4)。砂場の導入にあたって使用方法、管理方法について研修などで学んだ成果であると考えられる。一方で、6%の保育士が、管理がむずかしいと回答している。記述にも「メンテナンスが大変」「夏は暑くて使えない」などの意見もあり、保育士にとっては負担になる部分もあること、天候や時期に左右されることが分かった。

質問 D-2「砂遊びを導入して良かったか」に対しては、88%の保育士が「導入して良かった」と回答した（グラフ 5）。



質問 D-2（グラフ 5）

質問 D-3 「そう思う理由はなにか」について記述を求めたところ、一番多かったのは「子どもたちが楽しんでいるから」と「(友達とのやり取りがあり) 社会性を身に付けることができるから」という回答が多かった（表 4）。保育園を楽しむことが、子どもたちの登園へのモチベーションを高めることにもつながっているようで「保育園が好きになる」という回答もあった。保育士から見ても子どもたちが砂場遊びを楽しんでいることが認識されていることが分かった。また、子どもたちが数、言語、形、感覚などの学習ができるからという点も多く記述されていた。保育士たちは、砂遊びを子どもたちの学習のために使える手段であると認識していることがわかる。

また、砂場の中では子どもたちは「自由に遊んで」おり、身体を動かすため、「エネルギー発散」になるという意見も多かった。

また、聞き取りの中から、砂場を導入した当初、3つの問題があったことが分かった。一つ目は、保育士自身や保護者から、砂遊びの意義について理解を得ることである。保育園では子どもたちに文字や数字を読み書きでき

スキルを習得できるから (認知・言語・知覚)	15
楽しいから	23
ビーチにいるような楽しさ	5
喜んでいるから	6
友だちとの関りから社会性を身に付ける	24
保育園が好きになる	4
エネルギー発散になる	11
協力的になる	8
非攻撃的になる	1
自由な遊びを提供できる	14
子どもたちは幸せ	1
遊びを通して学んでいる	1
創造力を引き出す	6
コロナ感染問題	3
手先を使った遊び	2
暑いので日影が必要	1
夏は暑くて遊べない	1
水を利用することで遊びの幅が広がる	1
個性が出る	2
毎日の掃除が大変	3
シャベルやバケツなどを使い方を習得できる	2

るようになるよう、教育することが求められているにもかかわらず、砂場で遊ぶこと、わざわざ砂を使うことの意義など、学習と砂遊びのとの関連を理解する必要があった。二つ目の問題は、砂で遊ぶと、子どもの衣類や、手が汚れてしまうこと、三つ目は子どもたちが砂を投げる、道具の使い方がわからないなど、遊び方に問題があったことだ。こうした問題には、プロジェクトによる、砂場遊びと子どもの成長・学習に関する研修や、保護者説明会、保育士との話し合いなどを通して解決していったようだ。また服の汚れに関しては、園によってはビニール袋などでできたエプロンの着用や保護者に着替えの準備をお願いするようしたり、砂場使用後に手を洗う習慣をつけたりという方法で問題を解決していった。遊び方に関しては、子どもたちが砂を投げないよう呼び掛けたり、スコップやバケツなどの使い方を知らせたりといった働きかけを含めた実践を繰り返すことで解決していったようだ。問題を解決しながら積み重ねた実践の中で、子どもたちが楽しんでいる様子や、砂遊びを通して形や言葉、社会性など子どもたちが習得する機会になっていると、保育士の理解も深まっていったようだ。(回答者 Ms. Hoda Abd Elraady Shahaat、Ms. Manal Awad Mohamed、Ms. Yasmin Mohamed、Ms. Manal Mohamed Hassan、Ms. Karima Hassan、Ms. Shaimaa Abd elaziz Metwally、Ms. Ahlaam Harby Sayed)

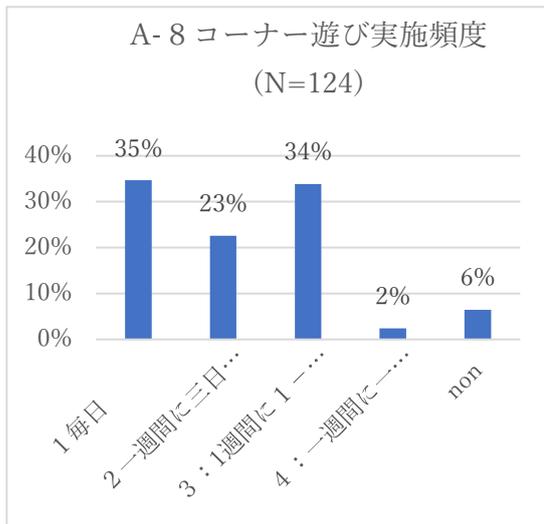
現在、新型コロナウイルスの感染拡大による休園期間で、砂場のメンテナンスができなかった期間があり、動物の侵入や、カバーの破損など、使用再開のためのメンテナンスが必要な園があった。また、遊びの中でスコップやバケツなどを友達と共有するため、感染予防の観点から、砂場での遊びを中止している保育園も数件あった。今後、砂場のメンテナンスや使用方法について、砂遊びを持続させていくためには、プロジェクトとして、フォローアップを行う必要があるといえる。



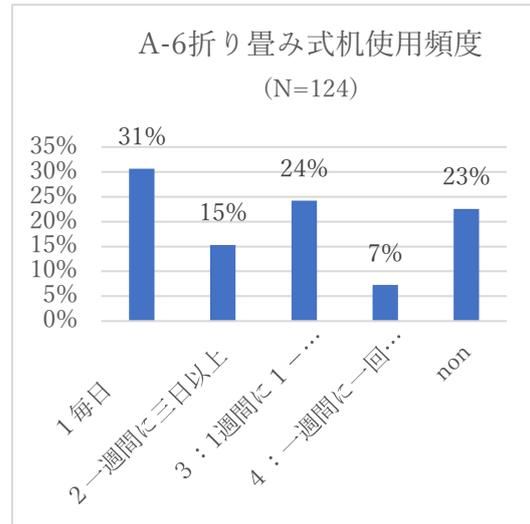
4-3.コーナー遊び

質問 A-8「コーナー遊びの実施頻度」は 35%が毎日、34%が 1 週間に 1-3 日の頻度で実施していると回答した。砂場遊びより多く保育の活動に取り入れられていることがわかる。その理由としては、砂場と比較すると、子どもたちが遊びに移りやすいこと、環境の設定がしやすいことが考えられる。

質問 A-6「折り畳み式机使用頻度」について、コーナー遊びの環境を確保するために、保育園内のスペースが狭いことが問題となったが、その問題を解消するためにプロジェクトでは、折り畳み式テーブルを導入した。その使用頻度は 30%が「毎日」使用しているとのことであった。訪問の際にも、保育室内において、折り畳み式テーブルを活用してコーナーを設置している部屋が多く見られた



質問 A-8 (グラフ 6)



質問 A-6 (グラフ 7)



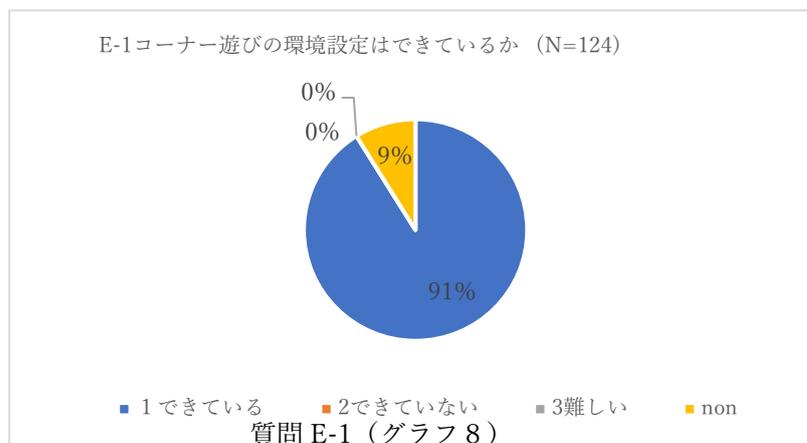
(机を重ねて空間を有効に使う)



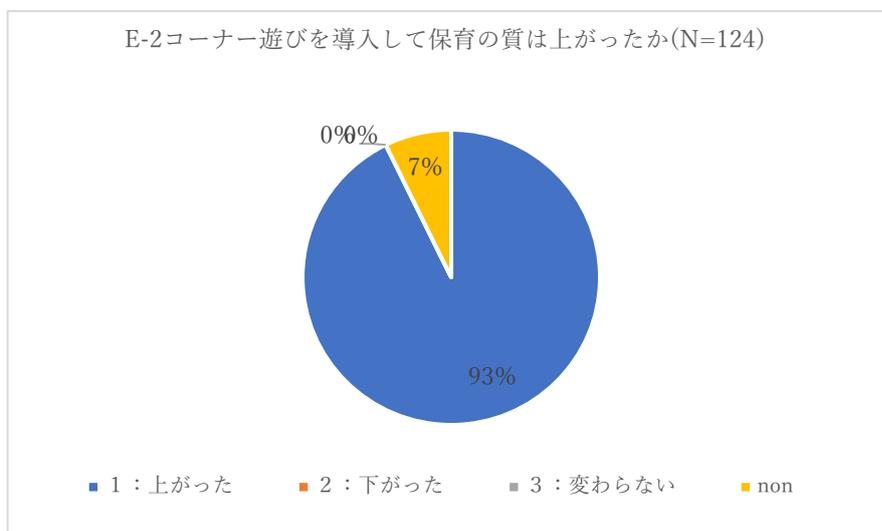
(折り畳み式机と玩具を活用した環境設定)

また、この机に関して、Ms. Hoda Abd Elraady Shahaat によると、今までは椅子と机の一体型になっているものを使うことが主流であったが、きちんと机と椅子を用意して活動すると、子どもたちは活動に集中でき、塗り絵や文字を書くなどの活動がやりやすくなったという気づきがあったと語った。これは、日々の保育環境を整える保育士にとって重要な気づきであるといえる。プロジェクトの取り組みとして、保育環境を構成するために必要な備品、玩具、絵本などの供与を行うことには、活動の質を向上するために、また、意義を理解するためにも、必要な支援であり、効果を高める可能性があることがわかった。

質問 E-1「コーナー遊びの環境設定はできているか」について、91%の保育士がコーナー遊びの環境設定をしていると回答した。プロジェクトからは、コーナー遊びに必要な玩具、絵本、パズル、机を供与した。それらを含めて、保育士自身が、子どもが遊ぶ環境として設定することができているようだ。また、聞き取りにおいても、供与された玩具や折り畳み式机、保育士研修のアイデアなどを参考に、保育園にもともとあるものや、自然物や廃材を使った手作り玩具も作成している。保育士たちは、玩具を用意することはお金がかかることだと思っていたが、身近なものから作ることができるという気づきから、あたらしい玩具・遊びのアイデアが広がっていったという語りが多かった。研修で得た知識を活かし、子どもたちと実践する中で、どのように遊び環境を準備するかについて、保育士が習得し、アレンジできるようになっていったことが伺えた。



質問 E-2「コーナー遊びを導入して保育の質が上がったか」という問いには 93%の保育士が「上がった」と回答した（グラフ 9）。



質問 E-2 （グラフ 9）

質問 E-3「そう思う理由は」の回答には、コーナー遊びの中で、子どもたちは文字や数字の使用や指先を使った活動を通し「スキルの発達を支援できるから」が多かった。スキルというのは、読み書きなどの認知的な学習のことを指す。そのほか「子ども同士の関りを持つから」という社会性を身に付けることができることについて、多く記述されていた。また従来の学習スタイルとは違い「子どもたちが主体的に、自由に遊んでいるから」と、子どもたちが主体的に動いて学習することに着目する保育士もいることがわかった。（表 5）

コーナー遊びやシアターで子どもの悪い行動が修正された（生活態度・習慣）	1
スキルの発達を支援できるから	23
周りの環境のものを学べるから	7
子ども同士の関り（社会性）を持つから	15
子どもの興味関心がわかる	8
玩具を大切にするようになった	2
保育園を好きになった	5
主体的に、自由に遊んでるから	10
「遊びを通した学び」を導入され楽しんでいる	1
エネルギー発散できるから	3
言葉の習得ができるから	2
楽しんでいるから	9
学習に良い方法だから	3
手先のスキルを発達させるから	3
保育士の経験値が上げることができる	1
子どもが主体的に活動することの意味を理解できた	1
保護者の理解を得る必要があった	1
記憶を通した学習から遊びを通した学習に変化した	2
遊びが多様であることが重要	5
遊びによる教育は間接的である	3

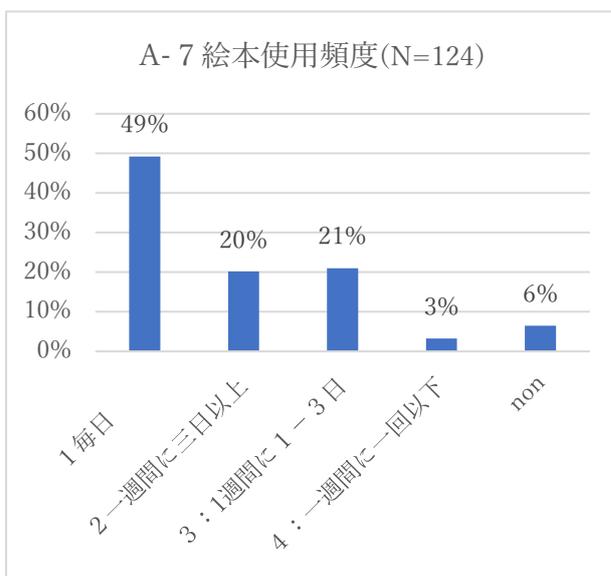
質問 E-3 （表 5）



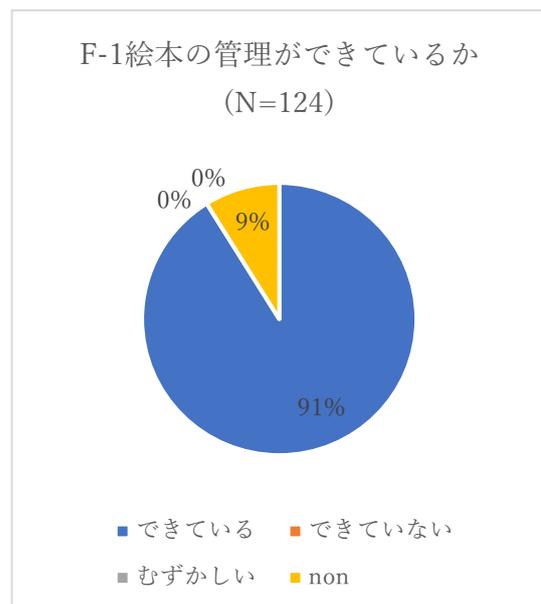
4-4.絵本について

質問 A-7 「絵本の使用頻度」は 49%の保育士が毎日使用していると回答した。絵本は以前からも使用されていたことから、供与したのもも、保育の中でも活用しやすいものであると考える。

質問 F-1「絵本の管理はできているか」に関しては 91%の保育士が、絵本の管理ができていると回答した。プロジェクトの訪問時、保育園のコーナー遊びの一つとして設置している園や、園長室や廊下などに設置して、全クラスが適宜利用できるようにしている場所があったことを確認した。



質問 A-7 (グラフ 10)

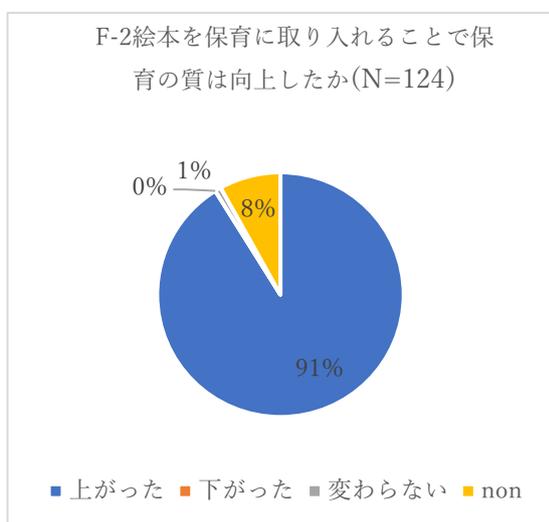


質問 F-1 (グラフ 11)

質問 F-2「絵本を保育に取り入れることで保育の質は向上したか」に対して、91%の保育士が絵本の導入により保育の質が向上したと回答した（グラフ 12）。

質問 F-3 「そう思う理由は」に対しては絵本を使用すると、子どもたちは言葉や文字、数字、色や物の名前など、「知識を得ることができる」こと、そういったものを絵や物語を通して学ぶことで、「授業で学ぶより早く習得できる」と回答があった。また、生活習慣やマナーなど生活基盤の形成にも絵本を活用している。保育士たちは絵本を学びや注意を引き付けることに活用していることが分かった。

プロジェクトでは各園に絵本 108 冊を本棚とともに供与した。Ms. Doaa Ahmed Alhennawy によると、プロジェクト開始前、園では絵本は 1, 2 冊所有していたのみであった。しかしプロジェクトの供与により絵本の数が増え、利用する機会が増え、子どもが集中している姿や、絵本の内容から学んでいる姿を目の当たりにした。子どもが絵本を読むことを通して、集中力や知識を身に付けていること、楽しんでいることに気が付いたと語った。



質問 F-2 (グラフ 12)

子どもの注意を引き付けられるから	13
たくさんの情報を与えられるから	9
絵から学ぶので学習が速い	15
子どもの行動への教訓がある	12
子どもの語彙が増える	4
物語から学ぶことができるから	7
楽しんでいるし、好きだから	10
知識を得ることができるから (言葉、習慣、形、数字、色など)	25
記憶力の強化	4
登園意欲向上	1
価値観を形成する	5
研修で絵本の大切さを学んだ	2

質問 F-3 (表 6)

まとめ

エジプトの多くの保育園では、就学準備のために文字や数字を読み書きするといった認知的な学習が重要であると考えられている。また、保護者からも、子どもたちがノートと鉛筆を使い、保育園で授業を受け、宿題を与えられて学ぶということが求められていることが多い。保育園での活動はその保護者ニーズに沿って選ばれている。

プロジェクトでは「Learning through play」を通し、乳幼児期の子どもが、就学準備に向けた学びだけでなく、生活基盤や心理面も含めた健全な育成が重要であることを、エジプトにおいて普及することを目指した。そのために、根拠として子どもの脳の発達について言及したうえで、保育士研修、コーナー遊び・砂場遊びの環境整備及び、技術面でのアドバイスを行ってきた。

本調査の目的である、保育士の保育に対する考え方・意欲がどのように変化したかと具体的な行動変容を明らかにするという点に対しては、以下のことが分かった。

➤ 保育士の学びと遊びの関係についての認識の変化

これまで、保育士主導の授業を行い、保育士の指示の中で子どもたちは話す・書く・読むなどの活動で、認知的な学習を行っていた。プロジェクトでの取り組みから、就学前の子どもたちにとって、認知のみならず心身の発達・生活基盤・人間関係など非認知的な部分を形成することも重要であると認識された。そのうえで、「Learning through play」は認知・非認知の部分を身に付けることができる活動であるとして、保育園で実践されてきた。今回の調査における、保育士たちの回答から、コーナー遊びや、砂遊び、絵本を通し、子どもたちは文字・数字・言葉の学習ができることに加え、創造力や社会性を身に付けることができると認識されていたことが分かった。言い換えると、保育士たちは「遊び」を学習アプローチの一つとして認識し、取り入れているということである。さらに遊びを中心として活動を取り入れることで「(子どもたちは) 保育園が好きになった」「子どもたちが楽しんでいる」という記述があったことから、Learning through play は子どもたちの登園意欲の向上につながっていることが分かった。

➤ 教材や環境整備に対する認識の変化

砂場遊びやコーナー遊びの環境や、絵本や玩具を使った実践、保育士研修を通じて保育士たちは教材、玩具、道具を用意すること、保育環境を整備することの重要性を理解し、環境の整備、維持管理に取り組んでいることが分かった。

➤ 子ども理解と関わり方の変化

研修や保育園での実践を通して、子どもの心理的・身体的発達など、保育士として子どもと関わるために必要な子どもに対する理解を深めた。それにより「子どもとの関りが楽になった」「遊びを通して学んでいることを理解した」など、関り方や取り入れる活動内容に変化があったことが分かった。

上記の調査結果を踏まえ、エジプトの就学前教育・保育について、以下の点が言えるだろう

う。

➤ 保育士研修の有効性

エジプトでは、資格や特別な訓練を受けていなくても保育士として働くことができる。しかし保育園で子どもと関わるためには、専門的な知識や技術力が必要である。保育士が専門知識を得ることは、保育士が子どもとの関り方を考慮できるようになるだけでなく、適切な活動を設定できることによる、子どものより良い心身の成長のためにも必須である。保育士研修は保育園における保育の質向上のために有効であることが分かった。

➤ 子どもの姿から学ぶ実践の重要性

保育士の記述には、子どもの姿に関する記述が多かった。また、聞き取りからも子どもが学習している姿や、楽しんでいる姿に関することが多く語られていた。Learning through play について理解をする際、保育士たちは子どもの姿の変化にも注目していた。聞き取りにおいても、研修で学ぶことに加え、保育園での実践を通し、子どもの姿の変化を目の当たりにすることで理解が深まったと述べられていた。このことから、保育士が保育の活動を理解するために、実践を通して、子どもの実際の姿から、活動の理解を深めるために重要であるといえる。

保育士が子どもの姿をとらえるという点に関して、日本においても、保育士が保育を見直し、改善する際、保育の PDCA サイクルを構築することが望ましいとされる。さらに保護者との連携を取りながら、子どもの次の成長に向けてどのような活動や環境が適切かを考慮して保育を進めていく。エジプトにおいて保育園内で保育の質を向上させるサイクルを構築していくためにも、子どもの姿をとらえるということの重要性は強調したい点である。

➤ 保育の中で「Learning through play」を実践するための環境整備の必要性

学習を中心としていた保育の中で、遊びを導入するためには、研修で得られる知識だけではなく、適切な環境で保育を実施し、その中で子どもの姿をとらえることで「Learning through play」をより理解することができていることが分かった。このことから、保育士の技術力の向上のために、実践経験を得ることができる環境そのものを設定するという支援は、保育士の技術力の向上の基礎となり得る、重要な支援であるといえる。

以上